

トリノの都市養蜂家でスローフードのリーダーでもあるグイド・コージェから「5月20日は世界の蜂の日でスローフードでも『Slow Bees』のアクションを起こすから、日本の仲間と呼びかけて欲しい」というメールが届いた。具体的には、「蜜蜂や花を訪れて受粉してくれる昆虫のために、花や野菜、木を植えて、彼らが私たちの食糧の生産だけでなく生態系で果たす重要な役割について皆で思い出そう」という内容であった。

そして昆虫、特にマルハナバチの生態と保全を専門とする生物学者、英国サセックス大学のデイブ・ゴールソン教授からのメッセージが添えられていた。

「世界にはたくさんの種類の蜂がいます。一般的にミツバチ一種類と思われがちですが、それは誤りで実に二万種の蜂がいて、養蜂家の飼育するミツバチはそのうちの一種にすぎません。蜂の仲間は世界中に生息し、色や形、そして大きさが全て違います。作物や自然界の花の受粉を担っているのはミツバチよりむしろ野生の蜂です。また、多くの人に知られていないのが受粉で重要な役割を果たしているハエや蝶、蛾やカブトムシその他たくさんの昆虫の存在です。例えば、私たちが好きなチョコレートは、原料カカオは、小さなハエの仲間が受粉しています。この小さなハエがいなければチョコレートを食べることができず、世界中の人が



屋上での“農業体験”を通じ 児童に受粉の大切さを伝える

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 最高顧問 高安和夫

事業紹介

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。

平成22年6月環境大臣表彰。

平成24年4月農林水産大臣より

「食と地位の『絆』づくり」

選定を受ける。

バチにくぎ目はミツバチに刺さるけれど、さわやかな「いよ」といふと、みるみるうちに、蜜の味はミツバチの目線から

悲しむでしょう。花を訪れる昆虫たちが私たちの生態系で果たす役割を思い出してください」。

これに賛同した私たちは全国の農福連携養蜂に取り組んでいる障がい者就労支援事業所の仲間たちに呼びかけると同時に銀座でもアクションを起こした。5月20日「世界の蜂の日」に銀座三越9階銀座テラス内の農園テラスファームに花やハーブの苗をたくさん植えて、その様子を『Slow Bees』のFBページ等SNSで世界に発信すると同時に、5月23日地の小学校児童による農業体験で、受粉の大切さについて話すことにした。

農業体験当日は朝から良い天気で、4年生の児童38人がテラスファームに来て来る頃には、銀座のミツバチもピンクのゼラニウムの花を目掛けて飛んで来てせっせと働いていた。ミツバチを見て驚く子もいたけれど「ミツバチは蜜や花粉を集める仕事に夢中なので、邪魔しないでそっと見るだけで触らなければ刺されな

また、パネルを使ってミツバチの生態を紹介すると同時に、あらかじめ積んでおいたラベンダー、ローズマリー、ミント、ゼラニウムなどのハーブに触れながら「ファームでミツバチが集まっていたこの花、いい香りがしますね！この匂いに誘われてミツバチは集まって来ます。植物はミツバチやその他の昆虫たちに受粉してもらいたいから、良い香りや蜜を出すのです。うまく受粉してもらおうと実を付け種が出来て新しい命が産まれます」と話した。そんな時、沖繩の就労支援事業所から「障がいを持つ仲間たちとコーヒーマスターの苗を植えました」というメッセージと写真が届いた。全国で『Slow Bees』運動が広がることを期待したい。



銀座テラスでミツバチの生態や受粉について学ぶ児童たち